

## 梅窓院通信

No.122  
2023/01/01

青山



増上寺執事長より御忌唱導師の親書を受取る様子

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

新年あけましておめでとうございます。令和五年の幕開けとなりますが、皆さま

まお健やかに新春をお迎えのことと存じます。

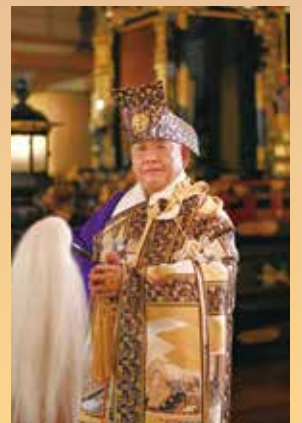
私も昨年、前期高齢者の仲間入りをしました。よく諸先輩方から、年を取ると毎年時が経つのが少しずつ早くなると聞いていましたが、実感はじめています。

さて、本年四月六日(木)、浄土宗大本山増上寺の最も大きい行事となる御忌大会で、東京教区四百二十七か寺の代表として御忌唱導師を拜命致しました。

御忌とは浄土宗を開かれた法然上人の年忌法要で、増上寺の法主(住職)より払子(仏具)を受け渡され、大法要の導師を勤めるという大役です。梅窓院としては、祖父・中島真孝二十三世住職、父・中島真哉二十四世住職に続く親子三代で唱導師を勤めることになり、大変光栄なことと喜んでおります。

このご縁に、梅窓院を支えて頂いている檀信徒の皆さまにもご参列、ご参拝頂きたいと切望しています。皆さまには次号でご案内を届けて参りますので、よろしくお願い申し上げます。まずはこの『青山』で増上寺の御忌を紹介させて頂きませので、一読下さい。

さて、はや丸三年となるコロナ禍ですが、昨秋ごろから、少しずつ色々な行事が戻ってきたように思えます。当院でも、岐阜県の郡上市長が参加された郡上おどり in 青山法要を執り行いました。本堂で郡上おどりが奉納された後、市長が青山家のお墓にお参りされました。開基、青山家の子孫の故郷となる郡上八幡との縁をこうして繋ぎ続けられていることに、感謝しながらお念仏を称えさせて頂きました。



事始めの新年正月

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

正

元旦、新しい年を迎えて迎春年賀のよろこびは、なにとは知れずおごそかに、それでいてやはりすがすがしく、とても清らかである。明朗にして清潔、温順にして厳肅とでも言おうか。当然のことながら、私もまた身住まい、居住まいを正して、飛びつ切りよそゆき風に改まった言葉と仕草を作ってみる。新年あけましておめでとうございませす――、慶賀の発声は莊重なお辞儀となつて、ここに新しい一年のスタートである。と同時に、かく書き記して、妙によそよそしいか……と、一年最初の反省となる。

さて、新年の部の歳時記を開いてみると、初春・初空・初日・初詣・初笑、初……と「初」を付ければ新年の季語となるように、書初・読初・御用始・仕事始など、……初、……始と熟して新年のめでたい季語となる言葉もまことに多い。一年の事始め、初事・仕初めの新年正月である。物事の始め、諸事諸般の営み事の手始め、初掛かりである。以下、めでたい正月気分の最初事・始め事を、歳時記の人事・生活欄に掲げられた新年句を拾って鑑賞したい。

書初のことさら太き筆選ぶ (栗人)

松のことは松にならへと詠始 (誠)

私自身、書初・筆始は実際にはあまりまじめに励んだわけではないが、ともかく小学生の頃から耳になじんできたが、読初・読書始となると、年を取ってから静かに本を読むという実感を味わうようになってからのものである。増成栗人が「ことさら太き筆」を手にしたのも、西山誠がめでたい松を例に挙げて読みはじめたのも、初春最初の第一事であるからである。

また、話初・初話など新年になつてはじめて人と話すことをいうが、講師などの話初・語初、あるいは説教師の話初・初法話などもある。なお聞初という季語はない。

これはまた吐言ははじめの笑ひぞめ (凍魚)

泣初や嬉し涙のせきあへず (椎花)

泣き笑いの初事。伊藤凍魚の句は、小言・おしかりののがさを経ての初笑いであり、麻田椎花の句は、うれしいことがいっぱいにあふれ、とどめようのない初泣きである。

仕事始とて人に会ふばかりなり (越央子)

くろずめる朱肉に御用始かな (狐草)

官財政界の重責を務められた大橋越

央子であるから、新年の初挨拶を交わす方々もさぞや多かつたことであろう。一方、西川狐草の一句、大分に使い古してきた「くろずめる朱肉」が新年を迎えて、きちんと仕事を開始した旨が報告されている。

草庵の短き縁を拭始 (風生)

掃初の母のものごしめでたけれ (月尚)

年末の大掃除などできれいにすがすがしく迎えたばかりの新年ではあるが、やはり箒や雑巾を手にしての初掃除。富安風生の「短き縁を」、小松月尚の「母のものごし」という中七がともよい。

背筋伸ばす読経始めの深呼吸 (裕彦)

本堂内の淑気は新年のおごそかさもつて寿ぎ、なによりも本尊阿弥陀如来の大慈大悲の尊容が温かくやさしい。新年新春を迎えて、「何事か事を成す」と私もまた改まって決意する。七十

七歳、喜寿を迎えた決心が、はたしていかようになるのか。すでに決意決心のこの時からして、肝心の足元がぐらつき揺らぐような情けなさであるが、ともかくしっかりとした確かな歩みを踏みいだしはじめなければならない。

(大正大学名誉教授)

九十一年の行事報告

行事報告

秋彼岸会法要・彼岸寄席 9月23日(金) 祖師堂で執り行いました。



郡上おどりin 青山法要 10月8日(土) 郡上おどりの奉納は3年ぶり。



第81回念仏と法話の会 10月12日(水)

秋彼岸寄席 三遊亭歌る多師匠。



十夜法要及び御忌唱導師親書伝達式 11月19日(土)



法話は正福寺住職の月城嘉辰上人。



しゅしょうえ

# 修正会

2023年1月1日(日)

法要 午前10時～ 2階 本堂



## 修正会とは

修正会とは新たな一年が平和で穏やか、そして実り豊かな年になることを祈願する、新年を迎えて最初の法要です。世界情勢が不安定な今、大切にしたい法要です。

**絵馬について** 新年のお参りに来て頂いた方にお配りしている絵馬は、元日のみ1軒に1体のお渡しとさせて頂いております。2体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかハガキ)でお申し付け下さい。2体目から1体1000円でお譲り致します。

**曆について** 各檀信徒の皆様様に1部同封させて頂きました。2部以上ご希望の方はこちらも文書(FAXかハガキ)にてお申込み下さい。2部目から1部1000円でお譲り致します。

## 東京都に緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発出された場合

法要の様子をライブ配信予定です。お席のご用意はございませんが、法要中はお焼香頂けますので、宜しければ本堂へお参り下さい。最新情報は梅窓院ホームページをご覧ください。

<https://www.baisouin.or.jp/>



梅窓院ホームページのQRコード ▲

今年の修正会法要はお席をご用意し、  
ご着席頂ける予定でございます。  
宜しければ本堂へお参り下さい。

※行程や場所は変更になる場合がございます。

※元日に温かいお茶の配布を致します。なお、数に限りがございますので予めご了承下さい。

※お雑煮・おせちの振る舞いは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止と致します。

## 新年によせて

まもなく新年を迎えますが皆様はいかがお過ごしでしょうか。

新年といえは、二休禅師(室町時代の臨済宗僧侶)のお歌を思い出します。

門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし

お正月を迎えたら、冥土へ旅立つときが一年進みますというお歌です。

さて、私事で恐縮ですが、東京教区の青年会(浄土宗の若手僧侶の集まり)活動で、十月に伊豆大島にて、平成二十五年の大雨による土砂災害犠牲者の慰霊法要に出仕させて頂きました。

法要ご参列者様より「気を付けて帰ってね」という会話を最後に親しい方を亡くされたたのお話を伺い、改めて命のはかなさを思いました。伊豆大島で発生した土石流は平成二十五年の十月十六日の未明、午前二時～三時頃に起きたそうです。

あみだぶつ とこえ  
阿弥陀仏と十声称えて眠まん 永き眠りになりもこそすれ  
法然上人

意識 南無阿弥陀仏と十遍称えてから、まどろむこととしましよ。永い眠りなってしまうかもしれないですから。

法然上人もこのようにお歌を詠んでいます。仏教では無常(すべては絶え間なく変化している)を説きます。つまり、変わっていくからこそ、自他の限りある命を大切に、命を活かして行くことです。

私達は日々忙しく過ごしてしまいがちですが、年末年始など時間にゆとりがあるときには、改めて限りある命を思い、自分自身を振り返り、阿弥陀様に向き合っ、お念仏の時間を取りたいものです。

(副住職 中島真紹)

合掌

# 梅窓院・三代続けて増上寺御忌唱導師拜命

令和五年四月六日、先々代、先代に続いて真成現住職が唱導師の大役を勤めます

中島真成現住職の祖父、中島真孝上人は昭和七年に梅窓院の住職に就任、昭和四十九年まで四十二年間住職を勤められた中で昭和四十六年に、父である真哉上人は十七年間住職を勤められた中、平成元年に増上寺の唱導師をそれぞれ勤められました。そして、平成四年から住職となった真成上人が住職三十三年目の今年、増上寺の唱導師を勤められることになりました。

昭和、平成、令和と中島家が三代続けて唱導師を勤める増上寺の御忌特集をお届けします。



平成28年、増上寺の御忌で脇導師を勤める中島住職（写真左）。今回は緋の衣の唱導師、大役を勤めることとなります。

## 御忌は法然上人の年忌法要

御忌とは浄土宗を開かれた法然上人の年忌法要をさす言葉です。

御忌はかつて天皇など高貴な方の年忌法要に使われていましたが、後柏原天皇の詔書を機に、江戸時代には法然上人の年忌法要だけに使われるようになりました。それだけ法然上人の開かれた念仏の教えが大切にされた、ということ。ちなみに、御忌は春の季語でもあります。

もともと御忌は法然上人の御廟（お墓）のある浄土宗総本山知恩院からはじまりましたが、やがて増上寺をはじめ、浄土宗の各大本山で勤められるようになりました。

## 江戸の一大行事

まるで大名行列！と江戸の庶民が集まったのが増上寺の御忌のお練り行列で、『東都歳時記』にも描かれています。江戸時代の盛大かつ華やかな増上寺の御忌は、令和の今も増上寺三門の前に延びる道路を通行止めにして行うお練り行列、境内に所狭しとずらりと並ぶ屋台など、その面影を残しています。特に木遣や寺侍、お稚児さん、そしてきらびやかな七条袈裟をつけた僧侶たちのお練り行列は圧巻です。

## 唱導師は一世一代の大役

増上寺の御忌の特長は、法要の最初に唱導師が増上寺

の法主（住職）から払子（住職が手に持つ仏具）を手渡すことです。

それは「この後はあなたが勤めなさい」と、増上寺で一番大きな行事の法要で、導師の役割を任されることになります。ですので、唱導師は法主に代わり法要の作法や読経、読み物をすべて正確にこなさなければなりません。そのため、事前に何度も習礼（練習のこと）をして臨む一世一代の大役なのです。

## 唱導師を勤められるご縁

増上寺御忌の四月四、五、六日の日中法要を勤める三人の僧侶は、初日は増上寺の管轄となる地域、北海道から東北を代表して一人、二日目は東京を代表して一人、三日目は東京を除く関東に長野、静岡を加えその中から一人が選ばれます。

唱導師を勤めるにはかなりの体力が必要で、年齢や体調も考慮されます。そして何より唱導師にふさわしいかという人柄も大切な要素になるのです。

そうした中、三代続けての唱導師は大変めずらしく、檀信徒の皆様におかれましては、この機会を逃すことなく団体参拝にご参加頂きますようお願い致します。

また、お孫さんやお子さんが、お稚児さんとして江戸時代から続くお練りに並べられると、一生の記念になるかと思えます。四月六日はどうぞ一家おそろいで増上寺へお越し下さい。

# 中島家唱導師アルバム



昭和四十六年、先代真孝上人の御忌唱導師姿。山門を背景にしての庭儀式。

## 昭和

唱導師は大きな傘の下を悠然と歩く。



## 平成

庭儀式で洒水する先代真哉上人。



平成元年、真哉上人の御忌唱導師の写真。法要直前の記念写真。前列中央が中村広隆法主、向かって右が真哉上人。隣が真成現住職、後ろの幼子が真紹現副住職。



## 現代

背景には東京タワーがそびえている。



大本山増上寺大殿（本堂）で厳かに執り行われる大法要。



## お稚児さん、募集します

令和5年4月6日(木)、午後1時半からのお練り行列に参加するお子様を募集します。幼稚園児から小学校低学年までを対象としています。当日は着物に髪飾りをつけ、保護者と一緒<sup>かんじょう</sup>に約500メートル歩きます。法要の最初に唱導師(中島住職)より健やかに育つようと、頭に灌頂(聖水をおつむに頂く)してもらいます。ご家族のお子様だけでなくお友達の参加も大歓迎です。

※お申込みの詳細は別紙案内をご覧ください。  
なお、御忌大会における梅窓院のご案内は次号(春彼岸号)にてお知らせ致します。



梅窓院では時に応じて、法要控室のお茶菓子や、行事のお供物として、「赤坂柿山」さんのおかきを使わせて頂いています。

今回、このコーナーにご登場頂くのは庶民派お菓子の代表である、米菓をお洒落な贈答用ブランドに進化させた「赤坂柿山」の代表取締役にご登場頂きました。

◆昨年の『青山』No.119 お盆号、「青山散歩道」のコーナーで紹介させて頂いた「赤坂柿山」の代表取締役のご登場です。よろしくお願ひ致します。

お店に続いて私までご紹介頂けるのは嬉しい限りです。よろしくお願ひ致します。

◆聞けば富山にあるお煎餅の会社は皆さん、のご親戚や、お知り合いとか。

はい、ほぼそう言っているかと思えます。お煎餅といえば米どころの新潟が圧倒的なシェアを占めていますが、富山にもお煎餅の会社があり、父はその会社から贈答用おかきという新ジャンルを切り開いた創業社長です。

◆おかきとお煎餅は違うのでしょうか。

はい、もち米から作るのが「おかき」、うるち米から作るのが「お煎餅」です。そしておかきの小さいものを「あられ」と言います。

◆そうだったのですか。知りませんでした。

どれも米菓と括れますので、知らなくて当然かと思えます。作り手にとってはお米の種類ほど大切なものはないのですけれど(笑)。

◆いま「赤坂柿山」さんの「みずほづつみ」を法要控室のお茶菓子にしているのですが、かわいいうえに美味しいと好評です。決める時に品ぞろえを見たら、それは色々な種類があり、どれも素敵な包装紙や入れ物で驚きました。

ベースになる贈答用に色々な行事や季節を意識した新商品を出しているので、驚かれますよね。

◆手土産にはセンスはもちろん、ご挨拶、お礼、お返しなど様々ケースがあるので、商品作りも面白いでしょうね。

そうですね。私たちの業界には一代一菓とあって、生涯でひとつ、ヒット商品を創り出そうという合言葉があります。父はそれを叶えましたが、私はまだその途上です。



梅窓院にお越し頂き、祖師堂の客間でお話しを伺いました。

◆そうなのですか。ところでこの度、梅窓院にお墓を持たれたのですね。

はい、父が一昨年他界しました。父は生前、八王子にお墓を用意していたのですが、遠いこともあり母が違うところにしたい、と。そこで、中島住職と知り合っていたこともあり、立地のよい梅窓院さんにお世話になりました。

◆お参りしやすいお墓ということですね。

はい、青山はお店のある赤坂の隣ですから、昔からよく知っています。

また、息子が青山学院に通っていたこともあり、妻も青山によく来ています。そして何より、バリアフリー化された墓苑を母がとても気に入っています。

私にとっても仕事の帰りや買い物かてらにお墓に寄れるのは便利ですから。

◆それは何よりです。これからもよろしくお願ひ致します。

こちらこそ、「みずほづつみ」ともども、よろしくお願ひ致します(笑)。



「みずほづつみ」を手にして頂いての記念の一枚。



SHIKAKU

## SHIKAKU(シカク)

今号では秋彼岸号で掲載したANDREA ROSSIと同じ、青山グランドホテル4階にある割烹「SHIKAKU」をご紹介します。



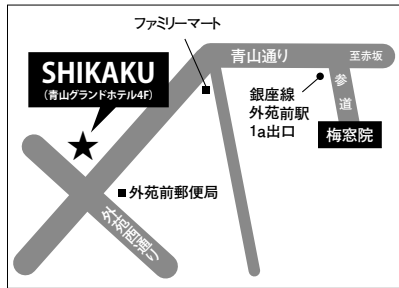
厨房を取り囲むカウンター席、待っている間も目の前で料理が出来上がっていくライブ感を楽しむことができます。

コンセプトは「大人のための居酒屋」。小粋な和食が楽しめるこのお店は、カウンター席のみとなっており、お客様が席から調理場の様子を間近で見ることができるよう、2つの厨房がぐるりとカウンター席に囲まれているのが特徴です。

また、メニューも基本の和食をベースに季節感と遊び心のある料理を料理長が考案しており、バラエティに富んでいます。そして、和食に合うよう厳選した日本酒・焼酎・ナチュラルワインなどもご用意。四季折々のこだわり抜いた食材を使用した和食と美味しいお酒が堪能できる「SHIKAKU」は、まさしく大人の幸せが詰まった場所と言えるでしょう。

墓参帰りや法要後に是非お立ち寄り下さい。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で、店舗の営業時間が変更となる場合がございます。最新情報は店舗まで直接お問い合わせ下さい。



営業時間/  
平日 ディナー17:00~23:00  
※平日はディナーのみ営業  
土日祝日 ランチ 12:00~16:00  
ディナー17:00~22:00  
定休日/無休  
席数/31席(カウンター)  
住所/東京都港区北青山2-14-4  
青山グランドホテル4F  
TEL/03-6271-5429



旬の食材をふんだんに使用したSHIKAKUのランチコース。(税込4,500円)

### 飲食店を経営されている皆様へ

「青山散歩道」コーナーにて掲載にご協力頂ける飲食店を募集しております。

## 青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

### ◎特選

○ 一日を終へる戸締り月清し

### ◎入選

○ どんぐりを供え子どもと十三夜

○ ページ繰る乾いた指と夜長かな

○ 盂蘭盆会帰ってきたと感ずる日

○ 天の川渡ってみたいとも思う

○ 秋彼岸おじに捧げる花飾り

○ 香煙を横ぎってゆく赤とんぼ

○ 秋の田をまつすぐ進むコンパイン

○ 日当たりの郁子の実すこし色づいて

○ 赤い羽根まるで勲章つけたよう

### ◎選者詠

○ 十月の日の差してゐる貸倉庫

大崎 紀夫

### ◎ワンポイントアドバイス

例えば「小春」または小六月、小春日和などという季語があります。この小春は陰暦10月のことですので、現在の11月12月あたりになり、立冬を過ぎたのにボカボカ暖かい日を指す季語になります。それを1月、2月にも暖かい日を「小春日和」などと誤って使う人が結構います。他の季語でも限られた期間しか通用しないものがあり、その辺は歳時記などで調べてから使うといでしょう。

### 投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。1月4日(水)を締切、令和5年2月発送の『春彼岸号』にて発表致します。郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。  
〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係  
FAX:03-3404-8436(青山文化村)  
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

### 「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室  
電話03-5368-1870

### 第八十九回

# 食は命

食養研究家  
武鈴子

余分な水分を  
除いてくれる小豆

慶事や日々を彩る食文化には欠かせない小豆。

日本では古くから、毎月1日と15日に小豆粥を食べる風習がありました。平安時代の「延喜式」に、正月15日に小豆粥を食べると、一年間の邪気を祓い、万病を除くという記載があります。小正月の宮中では七種粥が食され、一般の官職には米に小豆を入れた粥が振舞われたそうです。

ちなみに、1月7日の人日の節句に食べる春の野草を使った七草粥と混同しそうですが、七種粥とは、米、粟、小豆、胡麻、稗、黍、菘米(ムツオレグサ)などの穀類を入れたお粥のこと。小正月の小豆粥が庶民の間に浸透したのは、五節句が定められた江戸時代の頃とされています。

小豆には優れた利尿作用があり、水分代謝を高めて体内の余分な水分を排出する薬効があります。

日本の気候風土は年間を通して湿度が高いことから、日本人は水滯を起こしやすい体質を持ちます。

小豆粥を積極的に食べる習慣は、こうした土地に生きる私達の健康を守る先人たちの知恵と言えるでしょう。

特に気温が下がる秋・冬は、発汗による水分排泄の機会が減るために、利尿を腎臓・膀胱に頼ることになります。小豆の利尿効果は、負担のかかる腎機能を補う意味でもとても重要な食材と言えます。

甘いお汁粉も良いですが、米小豆塩だけで煮るシンプルな小豆粥は、小豆の薬効を最大限に活かしたレシピですので、ぜひお試し下さい。

## ジャパンエキスパートシステム墓苑事業部からのお知らせ

ご法要の参列者が増えて参りました。久しぶりにご親族の方と会ってお話ししている皆様の笑顔に癒されております。記念撮影のお手伝いなどをたまにするのですが、一瞬だけマスクを外して撮影する際に「あの人とあの人は似ている。兄弟かな?」とか遺影の方とそっくりな方もおられたりして、ほほえましく思えました。ご葬儀など悲しい時間もあったと思いますが、久しぶりの再会で嬉しさの方が勝っているのは故人様も許してくれるのではないのでしょうか? 昨春秋彼岸の際のペット法要では、3年ぶりに参列された方々がたくさんおられて職員一同感激でした。皆様とラインやメールでのやり取りが増えたこの3年でした。対面で近況など伺いながら手続きできるのありがたいな……と実感しております。

墓苑内で私共を見かけたらぜひお声がけください。お墓を探している方のご紹介もお待ちしております。本年もどうぞよろしく申し上げます。(墓苑部一同より)

### 行事予定

#### 第82回念仏と法話の会

2月24日(金)

時間 13時~(受付12時30分より開始)

行程 別時念仏会/法話

法話 ひとすじの道を歩む

講師 高知県 正福寺住職 月城嘉辰上人

## お檀家さんに伺いました

令和4年 秋彼岸会にて

### 『戻ってきた日常に感謝を』

コロナ禍でライブ配信が続いていたので、お彼岸の法要には3年ぶりに参列しました。その前までは梅窓院の行事によく参加していたので、日常が戻ってきたという感じですね。ご僧侶では若麻績上人にはよくお世話になっており、御棚経や法要も勤めて頂きました。優しくて面白い方ですね。

若麻績上人ご実家の宿坊に泊まった2015年の善光寺の団参は修学旅行のように楽しく、今でも良い思い出です。

### 令和5年度増上寺御忌大会のお知らせ

芝公園にある浄土宗大本山増上寺の令和5年度御忌大会にて、4月6日(木)に当院の中島真成住職が御忌法要の主役である唱導師を勤めることとなりました。それに伴い団体参拝を催します。

また、当日行われるお練り行列のお稚児さんも募集しております。とても良い記念になりますので、この機会にぜひお孫さんやお子様と一緒にご参加下さいませ。詳細は4、5面をご覧ください。皆様の参拝をお待ちしています。



## 令和5年 年間行事予定

※予定は変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

◆修正会法要	1月1日(日)
◆第82回念仏と法話の会	2月24日(金)
◆春彼岸会法要・寄席・物産展	3月21日(火)
◆はなまつり	4月2日(日)~8日(土)
◆増上寺御忌大会団体参拝	4月6日(木)
◆大施餓鬼会法要	5月20日(土)
◆開山忌法要・能楽奉納	6月10日(土)
◆第83回念仏と法話の会	6月15日(木)
◆盂蘭盆会法要	7月13日(木)
◆秋彼岸会法要・寄席	9月23日(土)
◆第84回念仏と法話の会	10月開催予定
◆十夜法要	11月18日(土)



## 梅窓院インスタグラム開設のお知らせ

梅窓院の魅力や最新情報を発信するため、この度インスタグラムを開設致しました。ぜひ、いいね&フォローをお願い致します♪



梅窓院【公式】 ID:baisouin\_official

梅窓院の公式アカウントです。



うめ子@梅窓院広報部 ID:baisouin\_koho

梅窓院広報部マスコットキャラクターのうめ子が梅窓院の日常やイベント情報をお届けします♪



発行 梅窓院  
発行日 令和5年1月1日  
発行人 中島 真成  
編集 青山文化村  
住所 〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電話 03-3404-8447  
FAX 03-3404-8107  
ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail [jodo@baisouin.jp](mailto:jodo@baisouin.jp)  
題字 中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡